

今日の焦点

このたびの大震災により被災された皆さまに心よりお見舞申し上げます。
皆さまの安全と、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

世界最大のSNS フェイスブックはわが国でどこまで利用者を増やせるか

本年2月11日に、30年近くエジプトに君臨したムバラク大統領が辞任した。それより前、1月14日に、チュニジアのベンアリ大統領はサウジアラビアに亡命し、23年にわたる独裁体制が崩壊した。両国とも崩壊の原因は、汚職、貧困、若年層の失業の増加などであるが、これらの問題は今に始まったことではない。それでは、何故今崩壊したのか。その答えは、SNSのフェイスブック（Facebook）や簡易ブログのツイッター（Twitter）の存在である。フェイスブックは人的ネットワークの組織化という点で大きな役割を果たした。またツイッターは、多くの国民にデモの参加を呼びかけるツールとなるとともに、海外のエジプト人や各国の世論の形成に寄与した。エジプトのフェイスブック利用者は、この騒動の時期に急増し、565万人に達したという。

フェイスブックは米国ハーバード大学2年生、マーク・ザッカーバーグが、2004年2月にハーバード大学関係者向けにオープンした時から始まった。もともとフェイスブックという言葉は、米国の大学などが学生間の交流を促進するために、新入生の顔写真を載せた名簿のことである。ザッカーバーグは、そのネット版を作ることから始まったということができる。これは他の大学にも広がり、更に一般社会にも展開され、2006年9月にはメールアドレスを所有する14歳以上の者であれば、誰でも入会が可能となった。

フェイスブックの利用者は、その後急速に増加し、現在は全世界の利用者数は6億人を超えており、米国では約1

億5,000人、ヨーロッパ、東南アジアなどでも1国当たり数千万人が利用していると言われている。何故このように利用者が急増しているのであろうか。第1に、フェイスブックでは、ほかのSNSと異なり、利用者が実名を登録することになっているということである。第2に、ツイッターと同じような機能を備えており、しかも文字のつぶやきだけでなく写真や動画など各種の情報が扱えることである。第3にゲームはもちろん、各種のアプリケーションを作動させる機能を有しているということである。いわば、インターネットの世界で利用できる機能を集大成した世界最大の交流サイトであると言えよう。

わが国でのフェイスブックの利用者は、現在260万人程度と、欧米諸国に比べると少ない。しかし、エジプトなどでフェイスブックが革命の大きな力になったことから、関心は高まり、またこのフェイスブック誕生の裏側を描いた、米国映画「ソーシャルネットワーク」が本年1月16日から日本でも公開され、多くの観客を動員している。同じ1月に、フェイスブックの成長と発展の様子を克明に描いた、米フォーチュン誌のベテラン記者のデビッド・カーパトリックの著書による「フェイスブック 若き天才の野望」の日本語訳が出版された。こうしたことから、フェイスブックの注目度はあがってきている。

このようにフェイスブックがわが国に進出を加速するなか、ミクシー、グリー、DeNAなどわが国の大手SNS企業は、生き残りをかけて、サービスの強

化を図っている。このうち、グリーとDeNAは、携帯電話やパソコンで友人同士が遊ぶソーシャルゲームで収益の大半を占めている。とりわけ、最近では携帯電話向けゲームサイトが10代から20代を中心に人気を集めており、DeNAが運営する交流サイト「モバゲータウン」は幅広いファンを抱えている。DeNAは海外企業との合併や買収を進めており、携帯電話向けゲームサイトに軸足を移している。グリーはゲーム以外のSNSの強化にも力を入れている。

ミクシーは、ソーシャルゲームが少ないためアイテム収入が伸びず、広告収入に頼っており、上記2社に比べ業績に差が出ている。しかし、ミクシーは自社サイト内でサービスを提供する囲い込み型から方向を転換し、サイトの外側にいる利用者や企業と、サービスやデータ、コンテンツなどをやりとりできる機能を外部に供給する戦略を進めている。また、非英語圏の中国、韓国などのSNS各社とタイアップし、フェイスブックに対抗し得るSNSグループを形成しようとしている。

わが国の大手SNS企業3社は、いずれも、2000万人以上の会員を有しており、併せて6000万人以上となっている。フェイスブックは実名登録を原則義務づけているため、SNSを匿名で使う傾向が強い日本での普及は、疑問視されてきた。また、SNSの利用の内容なども異なっており、果たして、わが国において、フェイスブックがどこまで会員を伸ばすことができるのか、極めて興味深い。